

〈事例報告4〉「資料を読み取り、プレゼンテーションを行おう」（現代文B）

1 実践にいたる背景

「言いたいことや書きたいことがあるのに、うまく伝えることができないし、どうしたらそれが伝わるのか分からない」という生徒の声を耳にすることがある。交流の相手が主に身近な人であることや、携帯電話のメール機能を使用する際に単語や短文でのやりとりが増えていることも関係あるだろう。

そして、読む活動が中心となりがちな国語の授業の影響もないとは言えない。「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（平成28年8月26日）においても、「高等学校の国語教育においては、教材の読み取りが指導の中心になることが多く、国語による主体的な表現等が重視された授業が十分行われていない」「話し合いや論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習が十分に行われていない」等の指摘があり、改訂の際には選択科目において「多様な文章等を多面的・多角的に理解し、創造的に思考して自分の考えを形成し、論理的に表現する能力を育成する科目」の導入が目指されている。すなわち、自分の思いを書いたり話したりする表現力は、生徒たちが今後過ごす社会生活において非常に重要であり、高等学校国語教育においても更に充実した指導が求められている領域であると言える。

そこで、本実践に至るまでに、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる力を身に付けさせることを目的に意見文を書く活動を行ってきた。しかし、自分の意見を発信する方法としては書くだけではなく話すことも挙げられる。読み手の姿が見えない書く活動と比べて、聞き手がその場にいる話す活動は、伝える相手がより明確になるとともに、相手の反応をうかがって表現を変えるなどの即時性が強いという特徴がある。その点において、書く活動だけでは身に付けることのできない力を話す活動によって身に付けることができるのではないかと考えている。

今回の実践においては話す活動を主に据え「論理的思考力を備えた表現力」を育成することを目的とする。

2 指導目標と評価

(1) 身に付けさせたい力（論理的思考に関わる目標）

自分の考えを、正確に、説得力をもった形で相手に伝える力。

(2) 関係する学習指導要領の指導事項

目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する力（現代文B（1）のエ）。

(3) 関係する論理的思考の活動

事象の関係性について洞察する。（④関係・洞察）

(4) 評価規準

関心・意欲・態度	話す能力・聞く能力	知識・理解
目的や課題に応じて、収集したさまざまな情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現しようとしている。	目的や課題に応じて、収集したさまざまな情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現している。	語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色を捉え、自分の表現や推敲に役立てている。

(5) 評価方法と評価基準表

ア 評価方法 プレゼンテーションの観察・分析

イ 「話す能力・聞く能力」の評価基準表

	評価A	評価B	評価C
①要因の分析	若者の投票率が低い原因を、適切な複数のデータを統合して、分析している。	若者の投票率が低い原因を、適切な複数のデータを用いて、分析している。	若者の投票率が低い原因を分析する際に、複数のデータを用いていない。
②解決策	設定した問題点について、具体的な解決策を、データと関連付けて提案している。	設定した問題点について、具体的な解決策を提案している。	設定した問題点について、具体的な解決策を挙げるができない。
③話し方	相手を想定し、適切かつ工夫した話し方をしている。	相手を想定した適切な話し方をしている。	相手を想定した適切な話し方をしていない。

3 単元の指導計画

(1) 言語活動と教材

ア 言語活動

与えられた課題（日本の若者の投票率を上げるにはどうすればよいか）に対する解決策を考え、プレゼンテーションする。

イ 教材

投票率や青少年の意識調査に関する19種の表及びグラフ（自主教材）

(2) 単元観・教材観

ア 単元観

グラフや表の読み取りとそれを基にした考察をするため、グラフの読み取り（事実）と解釈（意見）を明確に区別することを意識させるとともに、自分の意見に説得力をもたせるために客観的なグラフなどを用いることが効果的であることを学習させたい。

そして、自分の意見を論理的に伝える力も非常に重要である。考えを正確に伝えることができるとともに、相手に伝える過程において自己を内省することで、思考を整理したり更に緻密なものにできたりするからである。この活動を通じ、生徒自らの力で自己の考えを伝えられることを実感させたい。また、今回の話す活動では書く活動と比べて、より聞き手である相手を意識することが要求されるため、その点を意識した学習活動を促したい。そして、グループワークや相互評価などの学習形態を積極的に導入し、生徒たちが主体的・協働的に学び合う場を形成したい。

イ 教材観

今回の活動においては、グラフや表を手がかりとして「日本の若者の投票率を上げるためにはどうしたらよいか」を考える。客観的な資料を用いることで、それらを読み取る力と資料を基にした論理展開を考える力を身に付けさせることができる。また、昨年6月、改正公職選挙法が成立し、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられ、今年8月の参院選ではそれが実際に適用された。このように今回のテーマは非常に時宜にかなったものであり、実生活に基づいている上に生徒の関心も高いことが予想される。

(3) 指導と評価の計画（配当時間 6 時間）

次／時間	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準, ◆評価方法, *努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
1次 (3時間)	①各種資料を分析し、「若者の投票率を上げるためにはどのようにすればよいのか」を考える。課題に対してはグループで協力して取り組む。	①まずは個人で考え、次にグループで取り組ませる。 ・資料の読み取りと解釈（事実と意見）を明確に区別して考えさせるとともに、複数の資料を統合して投票率が低い要因を考えるよう助言する。 ・要因に対する解決策が適切かどうかを意識させる。 ・グループごとに中間報告会をさせ、相互に気付いた点を指摘し合いながら、よりよい思考へとつなげさせる。	◇関心・意欲・態度 ◆行動の観察 *グループの活動に積極的に参加するように促し、必要に応じて個人指導を行う。 ◇話す能力・聞く能力 ◆記述の確認（ワークシートⅡ, 班別ワークシートⅠ）
2次 (1時間)	①最終発表（プレゼンテーション）の準備をする。	①中間報告会の際に指摘された点について検討し、更に説得力のある意見に改善させる。 ・最終発表に向けて、内容面だけでなく表現面の検討もさせる。	◇関心・意欲・態度 ◆行動の観察
3次 (2時間)	①最終発表（プレゼンテーション）を行う。 ②相互評価を行う。 ③自己評価を行う。	①プレゼンテーションであるので、原稿を読むのではなく、内容を伝えることを意識して発表させる。 ②プレゼンテーションを聞いている生徒に評価をさせ、それを各グループにフィードバックさせる。 ③フィードバックされた他者からの評価を基にした自己評価を行わせる。	◇話す能力・聞く能力 ◇知識・理解 ◆行動の分析（プレゼンテーション） ◆記述の分析（班別ワークシートⅡ） ◇関心・意欲・態度 ◆記述の確認（相互評価表） *他のグループのプレゼンテーションを見て、どのような点が優れていたか考えさせる。

4 学習活動の実際

(1) 学習に取り組む生徒の姿

グラフを分析し、それを基にして自己の主張を行うという活動にはあまり馴染みがなく、当初はとま

どいも見られた。しかし、徐々にグラフにも慣れ、グループワークでは班員と協力しながら資料の読み取りやその考察などに積極的に取り組んでいた。また、2グループを1組とした中間報告会では「この資料とこの意見はつながりがないのではないか」とか「この資料を使うともっとよいのではないか」など、活発な意見交換を行い、より思考を深める様子が見られた。消極的な生徒もいたが、グループ内の他のメンバーに声をかけてもらうことで、自分なりに参加していた様子であった。

プレゼンテーションにおいては、スライドなどの小道具をあらかじめ準備したり、発表でも話し方や話す順番を検討したりするなど、それぞれのグループにおいて分かりやすく発表するための工夫が随所に見られた。大勢の前で発表することに抵抗がある生徒もいたが、ほとんどの生徒は堂々と発表していた。

グループワークに関しては、他者と交流しながら学習することで思考が深まり、一人では到達できない段階まで到達できるという利点がある。その一方で、個人で思考する時間を確保しなければ、グループ内のいわゆる「できる子」の発言がそのままグループの意見となってしまう、「できる子」以外の学習が活発に行われないう危険性もある。よって、個人で考えを深める時間、グループで協働的に学習する時間を意識的につくる必要があると感じた。またグループの構成人数も、グループワークを成功させる重要な要素である。今回はグループを3～4名で構成した結果、グループ内での意見交換が活発になり、活動に参加できない生徒は少なかった。活動内容によって適切な実施人数は異なるだろうが、熟慮して人数を決めるべきであろう。

(2) 「身に付けさせたい力」の実現状況と生徒の解答例

ア ループリックに基づいた評価

観点	評価A	評価B	評価C
①要因の分析	14%	86%	0%
②解決策	27%	64%	9%
③話し方	23%	59%	18%

イ 生徒の解答例

① 要因の分析

読み取り	仮説	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・自国のために役に立ちたいと思っている若者が半分以上である。 ・将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したいと考える人が他国よりも少ない。 ・自分が参加することで、社会が変わるかもしれないと考える人が他国よりも少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自国のために役に立ちたいと思っている若者が多いにもかかわらず、政策決定に参加したいと考える人が少ない。これは自分が政治に参加しても社会に影響がないと考えているからであり、そのような意識を若者がもっているから、選挙に対しても消極的になってしまっている。 	<p>A</p> <p>(複数の資料を用いて、それらを統合できている)</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・自国のために役に立ちたいと思っている若者が半分以上である。 ・日本では20～24歳の若者の投票率が1番低い。 ・選挙にあまり関心がないという理由で棄権した20～30代が1番多い。 ・棄権理由として、適当な候補者・政党がないというものが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の投票率が低い理由は、選挙にあまり関心がなく、自分が政治に参加しても意味がないと思っている人が多いからである。それゆえに政治に関心もなく、学ぼうともせず、候補者や政党についても知らないという悪循環が生まれている。 	<p>B</p> <p>(複数の資料を用いているが、統合しきれしていない)</p>
--	---	---

② 解決策

要因	解決策	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・政治に対する関心がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データより、若者は他の世代よりもインターネットから情報を得ている割合が多いので、テレビに加えてインターネット上で、芸能人を起用したキャンペーンを行う。 	<p>A</p> <p>(要因とデータを関連付けて解決策を提案している)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・選挙に参加する重要性を理解していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で、模擬投票や主権者教育を行うことによって、選挙に参加することの重要性を理解させる。 	<p>B</p> <p>(要因から直接考えられる解決策を提案している)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・政治に対する関心がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治家になれる年齢を下げる。 	<p>C</p> <p>(要因と解決策の結び付きが分かりにくい)</p>

③ 話し方 (省略)

ウ 毎時及び単元終了後における生徒の自己評価のコメント

① グラフに基づいて主張することに関して

- ・ グラフを読み取るのはあまり経験がなかったが、やり方などが分かった。
- ・ 一つ一つのグラフの読み取りはできるが、それらを統合するのが難しかった。
- ・ 自分の感じていたことが、実際のグラフに表れているのが分かりおもしろかった。
- ・ 資料を基にして解決策を考えるのは難しかったが、なかなかよいものが考えられたと思う。
- ・ 自分の意見を伝えるためには客観的な数字をあげるとよいことを実感した。

② プレゼンテーションに関して

- ・ プレゼンテーションでは自分なりに工夫したつもりだけど、分かりやすく話すためにはもっと準備が必要だと思った。
- ・ 原稿を準備して読むだけになってしまったのが反省点だった。
- ・ 他の班が自分たちでテロップや小道具を準備していて分かりやすかった。
- ・ 視線の使いをしっかりとするだけでもとても堂々としていたと感じた。

③ グループワークに関して

- ・ 自分だけでは分からなかったが、グループで考えることで理解できた。
- ・ グループ内でよいと思ってても他グループから指摘されるとおかしいと気付くことがあった。

- ・自分で考えていることはあったが、なかなかグループの中で発言できなかった。

④ その他

- ・これから大学にいったときや働くときにもとても大切な力だと思うから、今後もしっかり取り組みたい。

5 おわりに

今回の実践においては、与えられた課題について、グラフや表といったデータを根拠に主張する活動を行った。本実践において身に付けさせたい力は、事象の関係性について洞察する力である。それを踏まえて本実践を振り返る。

まず、主題に関わる成果について記す。本実践における評価基準表の中で、特に主眼をおいた観点が、「①要因の分析」である。そして、その観点では生徒の多く（86%）がB評価となった。このことは、多くの生徒が、複数のデータを基に考えることができたことを示している。一方で、更に一段階上の、それらを統合するという点については、未だ困難が大きいようである。生徒自身も複数のデータを統合する点に難しさを感じていた。言い換えれば、複数の要因の関係性を洞察する力に課題があるということである。その力は、今後論理的思考力を育成していくために重要なものであり、このような課題が明確になったことが、本実践の大きな成果であると言ってもいいのではないだろうか。

次に実践上の反省点について記す。データを根拠にして主張を展開する場合、与えられたデータの分析結果から主張を組み立てる方法と、自ら立てた仮説をデータによって裏付ける方法の二種類が考えられる。今回は、授業者が多数のデータを用意し、生徒には、自分が主張したいこと（仮説）を裏付ける適切なデータを選択させ、根拠とさせるつもりであった。しかし、生徒への指示の不徹底もあって、一部の生徒は、全てのグラフを網羅的に分析し、何を主張すればよいか分からなくなっていた。今回のねらいであるならば、資料を自分たちで探すところからさせてもよかったかもしれない。

グラフを読み取り、それを根拠に主張を組み立てる学習活動を、初めて行った生徒も多かったが、非常に積極的に取り組んでいる様子が印象的であった。また、生徒から「こういうのって大学とか会社とかで役立ちそうだね」という発言が聞かれるなど、生徒自身も学習の重要性や手応えを感じている様子であった。与えられたテキストを読み解くだけでなく、資料を活用して主張を展開する力は、正に今後求められていく能力であり、継続的に育成していくことが必要である。今後は、今回見つかった課題をどのようにして克服し、更に生徒の思考力を伸ばしていくかについても考えていきたい。

現代文「自分の意見を発表しよう」ワークシート I

(組 番 氏名)

◇次の問題について考えてみよう。

○18歳から選挙権が与えられることになった経緯について知っていることはあるか。また、なぜ18歳から選挙権が与えられるようになったと思うか。

○18歳から選挙権をもつようになったことで、あなたの政治に対する考え方や意識は変わったか。

はい 5 . . . 4 . . . 3 . . . 2 . . . 1 いいえ

(その理由)

○選挙に行くことはよいことだと思うか。

はい 5 . . . 4 . . . 3 . . . 2 . . . 1 いいえ

(その理由)

○日本で特に若者の投票率が低いのはなぜだと思うか。自分の考えと最も近いもの二つに○をつけよ。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 0 政治・選挙への関心がないから | 1 政治に対する信頼がないから |
| 2 選挙に関する情報が不足しているから | 3 投票の方法が限られているから |
| 4 選挙・政治教育があまりされていないから | 5 選挙に行くことが重要視されていないから |
| 6 候補者と年齢がかけ離れているから | 7 その他 () |

○投票率を上げるためにはどうしたらよいと思うか。

現代文「自分の意見を発表しよう」ワークシートⅡ 月 日

(組 番 氏名)

○資料を適切に用いて自分の意見を述べよう。

問1 日本の若者の投票率が低いのはなぜか。与えられた資料を用いて要因を述べなさい。

(ヒント:「日本の若者」と、他の対象と比較をしてみましょう。)

問2 問1を踏まえ、日本の若者の投票率を上げるための改善プランを考え、述べなさい。

振り返り

積極的に取り組めた	5	4	3	2	1
複数の資料を用いて、客観的な解釈を考えることができた	5	4	3	2	1
自由記述					

現代文「自分の意見を発表しよう」班別ワークシート I

○資料を適切に用いて自分の意見を述べよう。

ミッション：日本の若者（～30歳）の投票率を上げるための改善プランを打ち出せ。

(1)：日本の若者の投票率が低いのはなぜか。与えられた資料を用いて要因を考えよう。

(2)：(1) で考えた要因を解決できる適切な改善プランを考えよう。

組 班	
メンバー	

資料	要因		改善プラン
	読み取り	解釈＝仮説	

振り返り

積極的に取り組めた	複数の資料を用いて、客観的な解釈を考えることができた	自由記述
5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	

現代文「自分の意見を発表しよう」班別ワークシートⅡ 月 日 提出用

(組 班 構成員)

記述者 ()

○最終報告用紙をつくろう。

現代文「自分の意見を発表しよう」相互評価表

ルーブリック（評価基準表）

		評価A	評価B	評価C
①	要因の分析	若者の投票率が低い原因を、適切な複数のデータを統合して、分析している。	若者の投票率が低い原因を、適切な複数のデータを用いて、分析している。	若者の投票率が低い原因を分析する際に、複数のデータを用いていない。
②	解決策	設定した問題点について、具体的な解決策を、データと関連付けて提案している。	設定した問題点について、具体的な解決策を提案している。	設定した問題点について、具体的な解決策を挙げることができない。
③	話し方	相手を想定し、適切かつ工夫した話し方をしている。	相手を想定した適切な話し方をしている。	相手を想定した適切な話し方をしていない。

（ 班）

要因	解決策	話し方	総合
4 3 2	3 2 1	3 2 1	／ 10
一言アドバイス（内容面）		一言アドバイス（表現面）	

（ 班）

要因	解決策	話し方	総合
4 3 2	3 2 1	3 2 1	／ 10
一言アドバイス（内容面）		一言アドバイス（表現面）	

（ 班）

要因	解決策	話し方	総合
4 3 2	3 2 1	3 2 1	／ 10
一言アドバイス（内容面）		一言アドバイス（表現面）	